



レメディ『イグナシア』と St.Ignatius,Loyora

聖イグナチウス・ロヨラ 元兵士でしたが、ある日戦いで傷付きベッドの上で聖書を読んでいるうち、キリスト教の教えに目覚め、イエズス会の宣教師として世界中に布教活動にでかけました。

布教先で発見した薬がホメオパシーレメディとしても名高い「イグナシア Ignatia」です。

このレメディは、通常、強い失意の際に利用しますが、本来は理想主義者で、恐れを知らない勇敢なタイプの方にマッチします。

イグナチオ・デ・ロヨラ(1491年12月24日-1556年7月31日)は、彼はバスク地方、アスぺイティアにあるロヨラ城で生まれました。13人兄弟の末っ子だったイニゴは7歳で母を失い、1506年に親戚の騎士でカステイリャ王国の財務官を勤めていたファン・ベラスケス・デ・クエラルの従者となります。1517年以降、イニゴは軍務について各地を転戦しますが、1521年5月20日に行われたパンプローナの戦いで、指揮中に飛んできた砲弾が足に当たって負傷し、父の城で療養生活を送ることになります。

療養生活の間、暇をもてあましたロヨラはイエスの生涯の物語や聖人伝を読みはじめます。やがて、彼の中に聖人たちのように自己犠牲的な生き方をしたいという望みが生まれてきます。特にアッシジのフランチェスコの生き方に影響され、聖地に赴いて非キリスト教徒を改宗させたいという夢を持つにいたります。聖人にあこがれるあまり、彼は自分の名前をイグナチオに改めました。

健康を回復すると1522年3月25日にイグナチオはモンセラートのベネディクト会修道院を訪れます。そこで彼は世俗的な生き方との決別を誓い、一切の武具を聖母マリア像の前に捧げ、カタルーニャのマンレザにある洞窟の中にもって黙想の時を過ごします。そこでイグナチオは啓示を受けたとされている。ここにいたってイグナチオは世俗の出世を捨て、ひたすらわが身を聖母に捧げることを誓いました。

このころ、イグナチオはすでに『靈操』の原案ともいべきものをまとめていました。これは彼のもとに霊的指導を求めてやってきた人に対して行った一連の黙想のテーマ集です。『靈操』の影響はイエズス会にとどまらず、以後のカトリック教会全体にまで及ぶことになります。

1528年、イグナチオはパリ大学に入学し、一般教養と神学を学びます。パリでは七年学ぶのですが、多くの人々がイグナチオの霊的指導を求めてやってきます。そして、1534年までに彼は六人の重要な同志を得ていました。

・フランス出身のピエール・ファーヴル、・バスク出身のフランシスコ・ザビエル、・スペイン人のアルフォンソ・サルメロン、・ディエゴ・ライネス、・ニコラス・ボバディリャ、・ポルトガル人のシモン・ロドリゲス。

※この中のフランシスコザビエルこそ、日本にキリスト教をもたらした人物です。

1534年8月15日、イグナチオと六人の仲間はモンマルトルの丘に登り、サン・ドニ記念聖堂で唯一の司祭だ

ったピエール・ファールのだてるミサにあずかり、神に自分の生涯をささげる誓いを立てます。

「モンマルトルの誓い」彼らの立てた誓いは「今後、七人はおなじグループとして活動し、エルサレムでの宣教と病院での奉仕を目標とする。あるいは教皇の望むところならどこでも赴く」というものでした。これがイエズス会の始まりとされています。

1538年10月、ファールおよびライネスを従えて再びローマに赴いたロヨラは、教皇から修道会の会憲の認可を得ることで正式な許可を得ようとしています。会憲を審査した枢機卿団は好意的な評価を下し、パウロ3世は1540年9月27日の回勅『レジミニ・ミリタンス』で会を正式に許可します。

イグナチオは会の最初の総長に選ばれます。彼は会員たちを欧州全域に派遣して、一般学校と神学校を各地に創設させます。ローマにおけるカール5世の名代をつとめていたホアン・デ・ヴェガはイグナチオと会談し、その志の高さに感銘を受けます。

ヴェガはシチリア総督に任命されるとイグナチオとイエズス会員を同地へ招き、メッシーナに大学を開かせます。メッシーナの大学は評判を呼び、その教育システムは以後のイエズス会学校の雛形となります。

イグナチオの書いた1554年版会憲はイエズス会をピラミッド型の組織として規定、会員に上長と教皇への絶対的服従と自己犠牲を求めます。1553年から1555年、イグナチオは自らの生涯を振り返って「自伝」を口述し、秘書のゴンサルベス・ダ・カマラ神父に書き取らせます。この自伝は霊操の精神を理解する上でも重要な資料となっています。

そしてイグナチオは1556年7月31日にローマで死去。

1609年7月27日に教皇パウルス5世によって列福され、1622年5月22日にグレゴリウス15世によって列聖されたのでした。